玉川大学観光学部紀要　第11号　2023年，pp. 69～77

［研究論文］

# TOEIC® テスト500点取得を目指した学習指導の効果に関する研究（2）

## ―単語学習に焦点をあてて―

渡邉勝仁

〈要　　約〉

本研究の目的は，大学1年生のTOEIC® スコアが，英単語学習アプリケーションで学習することによって，どの程度向上するのかを検証することである。調査の対象となった学生は，統制群と実験群の合計30名で，TOEIC® L&R IPテスト（オンライン）の結果を事前テストとし，TOEIC® IPテストの結果を事後テストに使用し，リスニング・リーディングセクションの合計点を集計した。結果的に統制群と実験群の間では，TOEIC® スコアの結果に有意差は確認できなかった。大学1年生のTOEICテストの結果に関しては，英単語学習アプリケーションの効果は認められたが，個人の学習方法により結果はさらに向上すると考えられる。

キーワード：TOEIC IPテスト，オンラインTOEIC IPテスト，英単語学習アプリケーション，初級学習者，自己学習

## 1　目的と背景

本研究の目的は，渡邉（2023）の研究結果から，2023年度における玉川大学観光学部の1年生を対象とした必修英語科目であるBusiness Communication（BC）を受講した学生が，英単語学習アプリケーションで学習した結果，英単語学習アプリケーションで学習していない学生と比較し，TOEICテストの点数がどのように推移したかに焦点を当てて調査することである。さらには，調査結果から来年度以降の指導に向けて，どのような指導方法が最適であるかを模索する。本研究の調査期間は，春学期の6月24日に行われた一斉試験であるTOEIC IPテストオンラインから，12月17日に実施されたTOEIC IPテストまでである。本研究に関する調査に至った背景としては，渡邉（2023）の研究結果から，観光学部1年生が目指すTOEICテスト500点を獲得するための，効果的な学習方法を模索するためである。さらに，今後の学部でのTOEIC研究に関して，学生のスコア向上に大きく貢献できると考えたためである。

本研究の背景として観光学部のRegional Leader（RL）コースに所属する1年生は，秋学期終了後の1月31日までにTOEICテストにおいて500点を取得する必要がある。これは，卒業必須条件である2年次の夏休みから約1年間の期間で実施されるStudy Abroad プログラム（オーストラリア留学）に参加し，修了しなければならないためである（2023年度からは，TOEICテスト500点を取得しなくてもStudy Abroad プログラムに参加可能）。そして，留学から帰国した後は，3年次の秋学期終了時である1月31日までにTOEICテスト600点を取得することが目標とされている。これは，卒業まで

所属：観光学部観光学科　受領日　2024年1月16日

の間に，TOEICテストの学習を継続的に実施することが主な理由である。最終的に観光学部の学生は，TOEIC テストにおいて700点を取得することが卒業の条件となっている。結果的に，本学部生のTOEICテストに関しての目標は，3段階になっているといえる（表1参照）。

**表1　卒業までの必要取得点数**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 1年次1月末まで | 500点 |
| 2 | 3年次1月末まで | 600点 |
| 3 | 4年次1月末まで | 700点 |

本学部に所属する学生は，卒業に至るまでの4年間，TOEICテストのスコア向上のために常に集中している状態である。これは，玉川大学のTOEICテストの点数を卒業条件の1つとしていない他学部と比較すると，本学部の学生には大きなストレスとなるが，就職活動時及び就職後においては，有利になると考えられる。

最後に，先にも記した RLコースの学生は，TOEICテストに関した内容の必修英語科目であるBCクラス（50分）を一週間に2回受講する。さらに別のTOEICテストに関した必修英語科目（50分）を一週間に1回受講する。多くの授業では，週2回の授業を別々の教員が指導する。本研究のデータは，2023年6月に実施されたオンラインTOEIC IPテストと，12月に実施されたTOEIC IPテストの結果からである。TOEIC IPテストと，オンラインTOEIC IPテストの結果であるスコアレポート（図1参照）は，異なったものである。テストの内容も異なっていて，TOEIC IPテストは，公開テストと同じ紙媒体のテストで，時間は2時間である。しかしながら，オンラインTOEIC IPテストは，合計おおよ

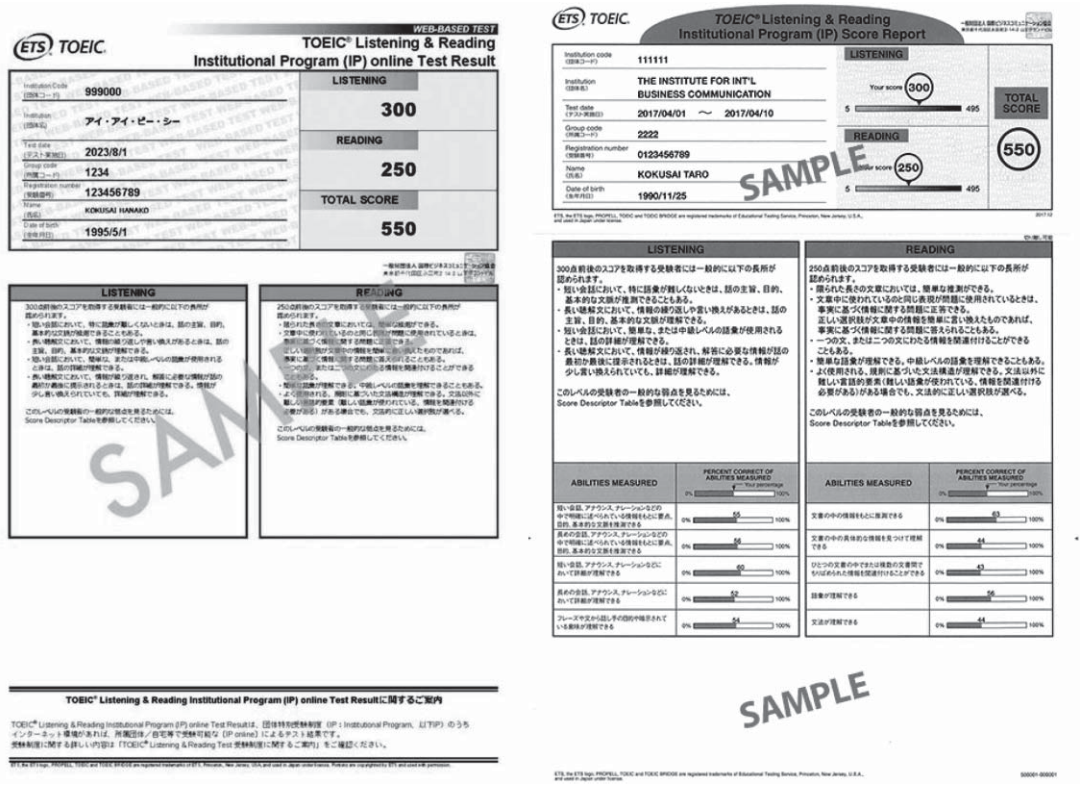


**図1　IPテストオンライン（左）とIPテスト（右）の結果**

IIBC ホームページ（https://www.iibc-global.org/toeic/corpo/guide/toeic.html）から

そ1時間で，リスニングセクションが約25分，リーディングセクションが37分間となっている。

## 2　先行研究

TOEICテストに関しては多くの研究が行われており，その研究結果に関しての成果も多く発表されている。Nation（2008）は語彙指導に関して，4技能の内容に焦点を置いた学習の際には，学習者に必要な語彙の意味を与えることによって内容の理解を促すことができる点が良いとしている。また，語彙指導において気をつけるべきことは，どの語彙を指導するかということと，どの指導方法を用いるかであるとしている。本研究では，どの語彙を指導するかという点に関しては，TOEICテストに頻出する単語で構成されていて，英単語学習アプリケーションである，株式会社 Lexxica（レキシカ）のワードエンジンを使用した。

その他の研究に関しては，リスニングとリーディングセクションを含む全体的なものから，リスニングまたはリーディングセクションに特化した研究や，パート1からパート7まで，各パートに特化したものなどがある。井上（2019）は，TOEIC初級者に多くみられる欠点として，すべての問題を解答しようとする点にあると述べている。さらに，難易度の高い問題に時間を取られてしまい，自分が正解できるレベルの問題を解答できなくなってしまうとしている。結果的に，初級者は，「今の時点の自分には，正解できなくてもかまわない問題がたくさんある」ことを理解し，難易度の高い問題を解答する前に，「自分が正解できるレベルの問題に時間を有効に使って解いていく」ことが TOEICテストで高得点を獲得するために成功する秘訣であることを理解することが大切であるとしている。このことから，TOEICテスト500点を目指す学生に対しては，英語力を指導するだけではなく，攻略の方法も指導する必要性がある。また，TOEICテストの結果は，絶対評価ではなく相対評価であることから，単純に1問を5点として分析することは不可能である（山形，2019）。

TOEICテストの攻略方法の研究結果として，目指す点数や勉強する期間の制限などによっても，攻略方法は変化する。TOEICテスト全体的な攻略法としては，短期間で各パートを勉強する際は，1から7まで順番に学ぶのではなく，スコアがあがりやすい順に学ぶと良いとしている（ヒルキ・相澤・前田，2021; ヒルキ・ワーデン・松谷，2020）。また，和久（2021）によると，リスニングとリーディングのバランスにこだわらず，自分が得意な方を徹底的に伸ばすという方法もあるとしている。

リスニングセクションでの攻略法としては，八島（2020）によると，パート1, 2のような短文は，単語レベルで聞き取れるようになればある程度の意味は理解できるが，パート3, 4では語数も多く，さらには多くの学習者が苦手としているイギリス人女性，オーストラリア男性によるナレーションなどの文脈の理解やセリフに込められた意図の推測も重要な要素となってくると説明している。リーディングセクションでは，やはり文法が重要であり，石井（2017）によると，パート5の問題は「短文穴埋め問題」であるため，文法事項と頻出の表現に焦点を当てて学ぶことが重要であるとしている。また阿川（2018）は，5秒で解く問題，10秒で解く問題など，スピード解答を重視することが重要であるとしている。最後に関（2018）は，パート7に関しては，ある程度のビジネスイングリッシュに関した語彙を含む，知識が重要であるとしている。結果的に，自分の弱い部分を把握し，効率的に参考書などを利用し，高得点を目指す必要があると考えられる。

## 3　実験

本項では，調査対象者，実験に使用したアプリケーション（ワードエンジン）の説明と実験方法の

3つの項目に分けて解説する。

### 3-1　調査対象者

本研究の調査対象者は，玉川大学観光学部のBusiness Communicationを2023年度に受講した1年生30名である。これらの学生を，統制群15名と実験群15名に分類した。

### 3-2　英単語学習アプリケーション（ワードエンジン）

ワードエンジンとは有料英単語学習アプリケーションであり，様々な英語資格検定試験に対応した，英単語に特化した英語学習用ツールである。最初にV-Checkテストで英単語能力を測定し，その測定結果に基づき個々の学習者に最適な学習コースが作成される。期間を置いた反復出題により，学習者の長期記憶の構築を促進する（図2参照）。さらに，学習者の学習状況を管理する，教員の管理者向けのツールも存在するので，授業内の評価基準項目に追加することも可能である。

図2　英単語コース（左），V-Checkテスト（中央），反復学習（右）

### 3-3　実験方法

前項でも述べたとおり，ワードエンジンの学習内容は，TOEICテストに特化した英単語の問題を解答する形式である。今回の研究で対象となった，学生30名の半数である，実験群の15名は，2023年度の授業開始の4月末から12月末まで春学期と秋学期を通して，授業外学習として，英単語学習アプリケーションであるワードエンジンを使用し学習した。実質的な学習期間は，5月から7月の3か月と，10月から12月までの3か月の合計6か月間であった。夏休みの期間は，希望者のみ学習した。ワードエンジンの1つの区切りである一週間の学習では，問題に対しての正解数を420と設定した。毎週月曜日に，教員の管理者向けのツールに正解数が送られてくる。420以上の正解数をクリアした学生と，そうではない学生のデータを，2023年度のBusiness Communication の授業で春学期と秋学期それぞれ12週間（12回），合計24週間で集計した。

上記のワードエンジン以外では，6月末に実施されたオンラインTOEIC IPテストのスコアを本研究の事前テストとした。この試験は，2023年度に入学した観光学部の1年生全員が受験した。事後テストのデータに関しては，観光学部の各学生が実費で受験する，TOEIC IPテストの最高点を集計した。2023年度に玉川大学で実施されたTOEIC IPテストは，5月の初回から2024年の1月に行われた第9回までであったが，本研究のデータは12月に実施された第8回までのものである。

## 4　結果

本項目では，3つの表で実験群のワードエンジン終了回数，調査対象者30名の事前・事後テストの結果と，最後に事前・事後テストの平均を表示する。

### 4–1　ワードエンジン

2023年度にBusiness Communicationを受講した1年生15名である実験群のワードエンジン終了回数の結果は，以下のとおりである（表2参照）。ここでは，春学期と秋学期にそれぞれ12週間実施し，それらの合計回数を表している。ここで，4，5，9番の合計回数を見てみると，それぞれほぼ半数の回数しか終了していないことがわかる。

**表2　実験群15名のワードエンジン終了回数（春学期・秋学期・合計）**

| 学生 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 春学期 | 10 | 10 | 12 | 7 | 7 | 10 | 12 | 12 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 秋学期 | 10 | 11 | 12 | 5 | 7 | 8 | 12 | 10 | 4 | 8 | 12 | 11 | 11 | 12 | 12 |
| 合計 | 20 | 21 | 24 | 12 | 14 | 18 | 24 | 22 | 14 | 18 | 22 | 21 | 21 | 22 | 22 |

### 4–2　事前・事後テストの結果

統制群と実験群の合計30名の事前・事後テストの結果は以下のとおりである（表3参照）。観光学部の1年生の重要な課題として，表1にも示した通り年度末までにTOEICスコアを500点以上取ることを目標としている。このことから，統制群の事後テストの結果を見てみると，合計で6名の学生のスコアが500点以上であることがわかる。これに対して，実験群の合計では，4名にとどまっている。

**表3　統制群と実験群30名の事前・事後テストの結果**

| | 学生 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 統制群 | 事前テスト | 410 | 365 | 360 | 375 | 350 | 475 | 370 | 435 | 450 | 485 | 290 | 280 | 485 | 355 | 245 |
| | 事後テスト | 410 | 525 | 465 | 510 | 420 | 475 | 440 | 540 | 550 | 540 | 435 | 475 | 620 | 495 | 345 |
| 実験群 | 事前テスト | 395 | 390 | 410 | 475 | 455 | 385 | 450 | 360 | 280 | 340 | 360 | 310 | 340 | 465 | 485 |
| | 事後テスト | 435 | 390 | 485 | 560 | 570 | 490 | 530 | 445 | 355 | 340 | 420 | 405 | 340 | 540 | 485 |

### 4–3　事前・事後テストの平均値

最後に，統制群と実験群の事前・事後テストの平均値は，以下の通りである（表4参照）。統制群の事前テストの平均は382.00点で，事後テストの平均は483.00点であった。この差は101点であり，実験群の平均の差は59.34点であったことから，約半数の結果となった。

**表4　統制群と実験群の事前・事後テストの平均値**

| | | *M* | *SD* |
|---|---|---|---|
| 統制群 | 事前テスト | 382.00 | 74.85 |
| | 事後テスト | 483.00 | 68.32 |
| 実験群 | 事前テスト | 393.33 | 62.84 |
| | 事後テスト | 452.67 | 77.89 |

## 5　考察

本項でも結果の章と同じように，3つの項目ごとにワードエンジン，事前・事後テストの結果と，最後に事前・事後テストの平均について考察する。

### 5–1　ワードエンジン

ワードエンジンの終了回数を春学期と秋学期，さらには春秋合計に分けて考察する。各学期において，最高12回で設定したワードエンジンの目標回数であるが，春学期では，15名の調査対象者のうち13名が10回以上終了しており，ほぼ全員が目標回数に達成している。しかしながら，4番と5番の学生は，それぞれ7回の終了回数となっていて，秋学期の終了回数の5回と7回を追加すると，それぞれ12回と14回となる。実験群の15名中最低終了回数の2名であるが，事後テストの点数は，それぞれ560点と570点であり，実験群のなかでは，1位と2位である。この結果として考えられるのは，4番と5番の学生は事前テストの点数がそれぞれ475と455であり，ほぼ500点に近い数値であったためであると考えられる。また，9番の学生による春学期の終了回数は10回であったが，秋学期は4回であり，事前テストの結果は280点で事後テストは355点であったことから，さらに点数向上が見られたのではないかと推測される。

### 5–2　事前・事後テストの結果

全体的な事前・事後テストの結果から考察すると，統制群と実験群の合計30名のスコアはすべて上がっている。これは高校を卒業し大学に入学した1年生のほとんどがTOEICテストの受験経験ないことからだと考えられる。

統制群の事後スコアの結果を見ると，6名の学生が500点以上を取っており，この中で1名の学生のスコアは620点であった。実験群の事後テストの結果では4名の学生が500点以上を取ったこととなった。統制群と実験群合わせて10名の学生が500点以上という結果となったが，このうちの8名は，事前テストですでに400点以上であった。しかしながら，統制群の2番は事前テスト365点で事後テストが525点であり，その差は160点と30名中2番目にスコアを伸ばしている。最も大きくスコアを伸ばしたのは統制群の12番で，事後テストの結果は475点ではあったが，195点伸ばした結果となった。統制群と実験群合わせて，点数が顕著に上がった上位5名はすべて統制群の学生であり，それぞれ12番が195点，2番が160点，11番が145点，14番が140点，4番と13番が135点であった。これらの結果から，統制群の結果が実験群の結果を大きく上回ることとなった。

### 5–3　事前・事後テストの平均値

統制群と実験群の事前テストと事後テストの平均値は，表4の通りである。前項の結果と考察から理解できるように，統制群の事前テストと事後テストの平均の差は101点であった。これに対して実験群の差は約60点にとどまり，統制群の結果がより大きいものとなった。実験群の学生に，おおよそ1年間のワードエンジンを使用した学習について良い点と悪い点に関して意見を聞いた。その結果，良い点としては，スキマ時間に学習できる，何回も同じ単語を復習できる（音声も聞ける），場所をとらないでできる，TOEICテストで実際にワードエンジンでやった単語が出てくる，などの回答を得ることができた。しかしながら，悪い点としては，問題の場所で覚えてしまうことが多い，という意見が多く，問題の答えとしての3つの選択肢であるa)，b)，c）が順番は変わるものの必ず同じ3つが出てくるので，形式で覚えてしまって，実際の単語の意味を理解するものではなくなっているので

はないかと考えられる。さらに多かった意見としては，日曜日にすべてをやってしまう，ということで，1週間の区切りでは月曜日から日曜日となっていて，1週間で420の正解を出すために学習する設定になっており，1日でこの正解数を出すことが可能である。そのために，実験群の学生に対して，ワードエンジンの学習が大きなストレスになっていたのではないかと考えられる。

## 6　結論

本研究の目的は，英単語学習アプリケーションで学習した実験群のTOEICテストの結果と，統制群の点数がどのように推移したかに焦点を当て調査することである。結果的には，統制群の結果が実験群の結果を上回ることになった。これには，学生の自己学習に要因があるのではないかと推測される。その理由は，英語教育の分野においては，語彙学習の重要性に関する研究が多く報告されており，今回使用した英単語学習アプリケーションは，これに基づいて開発されていると考える。しかしながら，毎週の締め切り前日ですべての目標を達成しようとしていた学生が多くいたことが原因ではないかと考えられる。教員からは，可能な限り毎日60正解を目標に学習するよう指示されていたが，1週間に1度のチェックでは，どうしても前日にすべてを終わらせようと考えてしまうのではないかと思われる。

## 7　今後の課題

今後の課題として，学生がストレスを感じない程度の指導方法と，より学習効率が上がる自己学習を指導することが重要であると考える。玉川大学観光学部の1年生は，英語の必修科目として，1週間にTOEIC関連の50分授業3コマと4技能関連の100分授業2コマを履修している。さらに初年度の1月末日までにTOEICスコア500点以上を目的としているので，大きなストレスとなっているのではないかと考える。また，TOEICテストの初級者に対して，最適な指導方法や攻略法に焦点を当てて指導していく必要があると考えられる。

### 参考文献


阿川敏恵（2018）.『TOEIC® テスト文法完全攻略ルールブック』テイエス企画，東京.

石井辰哉（2017）.『TOEIC® L&Rテスト 集中ゼミ Part 5&6　新形式問題対応』旺文社，東京.

井上治（2019）.「TOEIC® テスト新形式問題におけるリスニング・セクション パート3・パート4の難易度と初級者のための攻略法を考察する―ETS作成問題の分析を通して―」『生駒経済論叢』*17(2)*, 21–36.

関正生（2018）.『改訂版 世界一わかりやすいTOEICテストの授業［Part 7 読解］』KADOKAWA，東京.

ロバート ヒルキ・相澤俊幸・ヒロ前田（2021）.『TOEIC®L&Rテスト 直前の技術』アルク，東京.

ロバート ヒルキ・ポール ワーデン・松谷偉弘（2020）.『はじめてのTOEIC®LISTENING AND READINGテスト全パート教本［三訂版］新形式問題対応』大日本印刷，東京.

八島晶（2020）.『八島式TOEIC®L&Rテストの英語が聞こえるようになる本』幸和印刷 大日本印刷，東京.

山形俊之（2019）.「TOEIC® Listening and Reading テスト高得点取得を目指した学習指導法～ TOEIC® L&Rテストスコアアップ指導者養成講座での学び～」『湘北紀要』*40*, 29–47.

和久健司（2021）.『ゼロからのTOEIC®L&Rテスト600点全パート講義』ジャパンタイムズ出版，東京.

渡邉勝仁（2023）.「TOEIC® テスト500点取得を目指した学習指導の効果に関する研究 ―大学1年生を対象に―」『玉川大学観光学部紀要』*10*, 85–94.

Lynch, J.・山本厚子・渡辺香名子（2021）.『BEFORE-AFTER PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST

<Revised Edition> 分析型 TOEIC テスト演習〈改訂版〉』センゲージラーニング，東京.
Nation, I. S. (2008). *Teaching vocabulary: Strategies and techniques*. Heinle, Cengage Learning.

# A Study on the Effectiveness of Academic Instruction for Students Aiming to Obtain 500 Points on the TOEIC Test (2): Focused on Vocabulary Learning

Katsuhito WATANABE

Abstract

The purpose of this study was to examine the extent to which TOEIC® scores of first-year college students improve when they study with an English vocabulary learning application. A total of 30 students from the control and experimental groups were examined. The TOEIC® L&R IP test (online) was used as the pre-test and the TOEIC® IP test as the post-test, and the total scores for the listening and reading sections were collected. The results showed no significant differences in TOEIC® scores between the control and experimental groups. With regard to the TOEIC® test results of first-year university students, although the effectiveness of the English vocabulary learning application was observed, the results could be further improved by individual learning methods.

Keywords: TOEIC® IP Test, online TOEIC® IP Test, English vocabulary learning application, beginner-level learners, self-study